

H27年7月22日  
FFW研究会

# 日本版FFWの進捗

産業医科大学  
公衆衛生学教室  
松田晋哉

# FFWに対する開業医の関心を 高めるための戦略

- 法律で定められたことを活用する
  - がん対策基本法

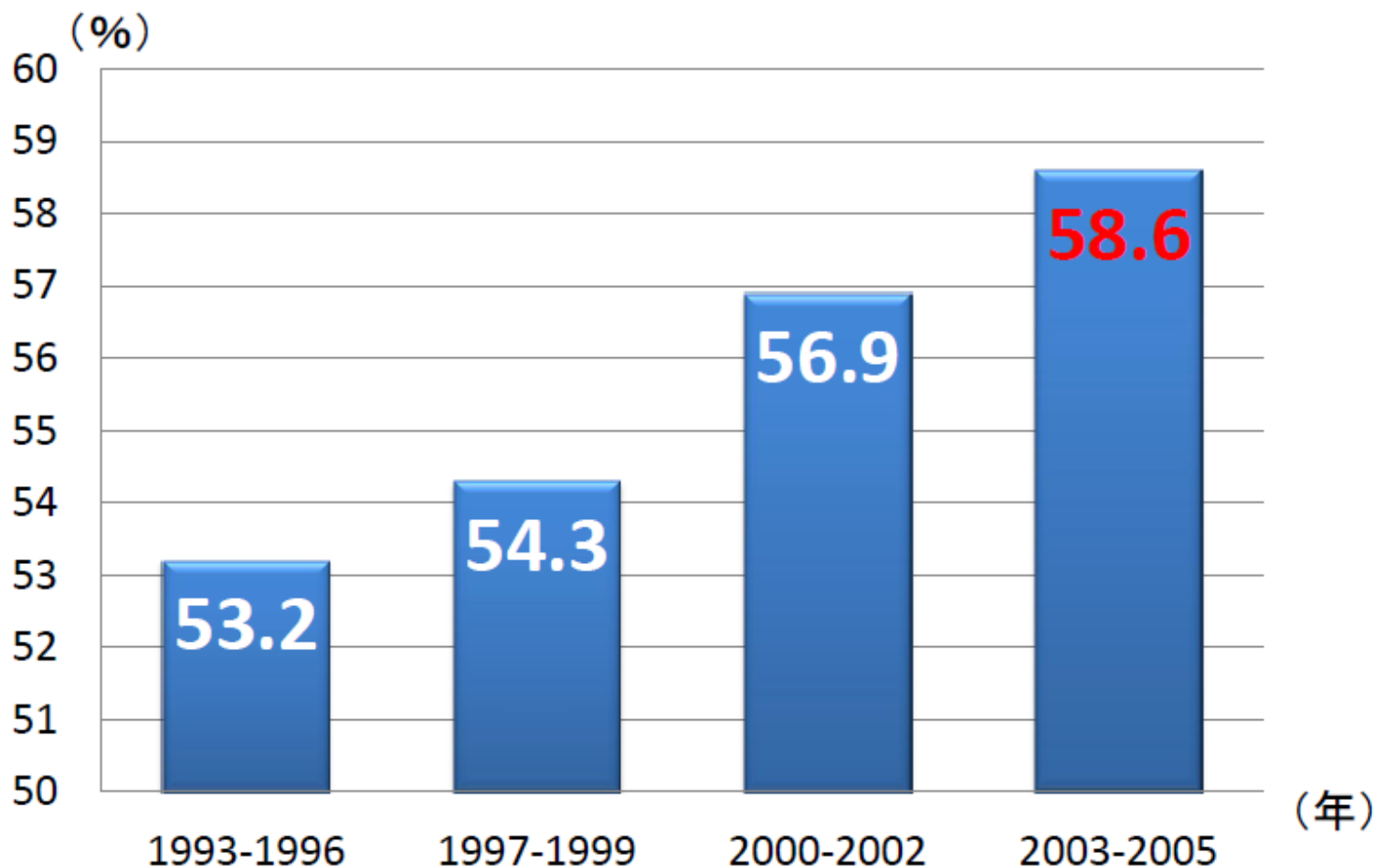
## 9. ⑨がん患者の就労を含めた社会的な問題

就労に関するニーズや課題を明らかにした上で、職場における理解の促進、相談支援体制の充実を通じて、がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築を目指す。

- これをもとに他疾患（リウマチなどの筋骨格系疾患）に展開
  - 産業保健での取り組み
  - 理学療法士などの関連職種巻き込み

# がんの5年相対生存率（全がん）の推移

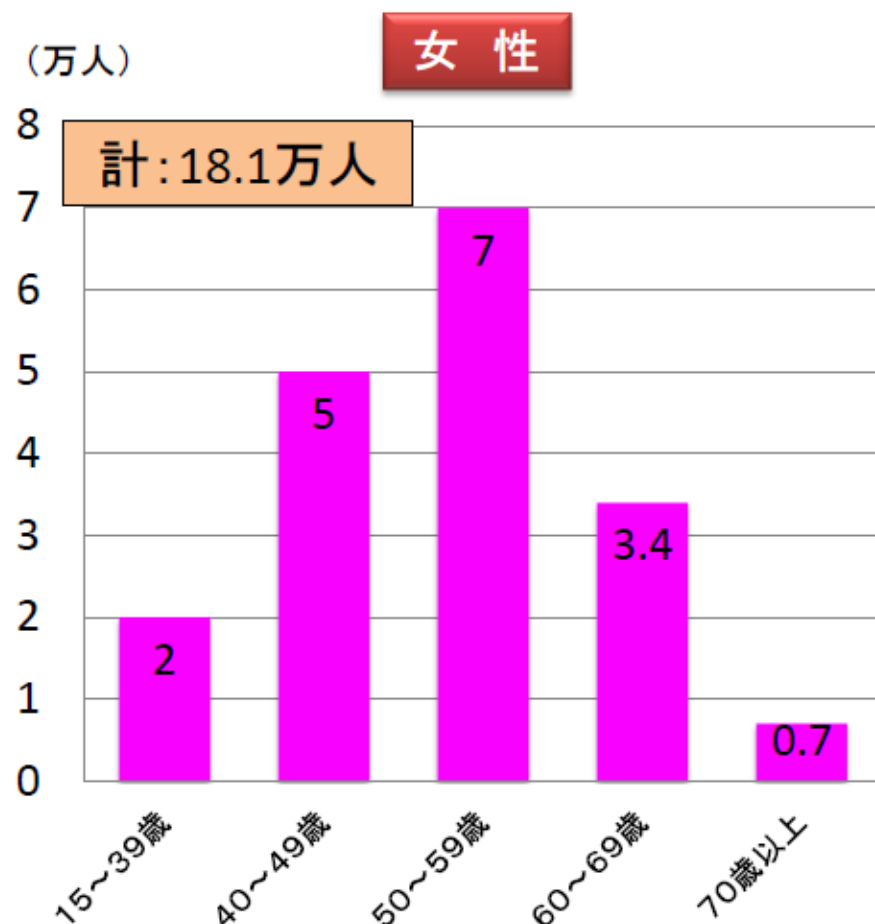
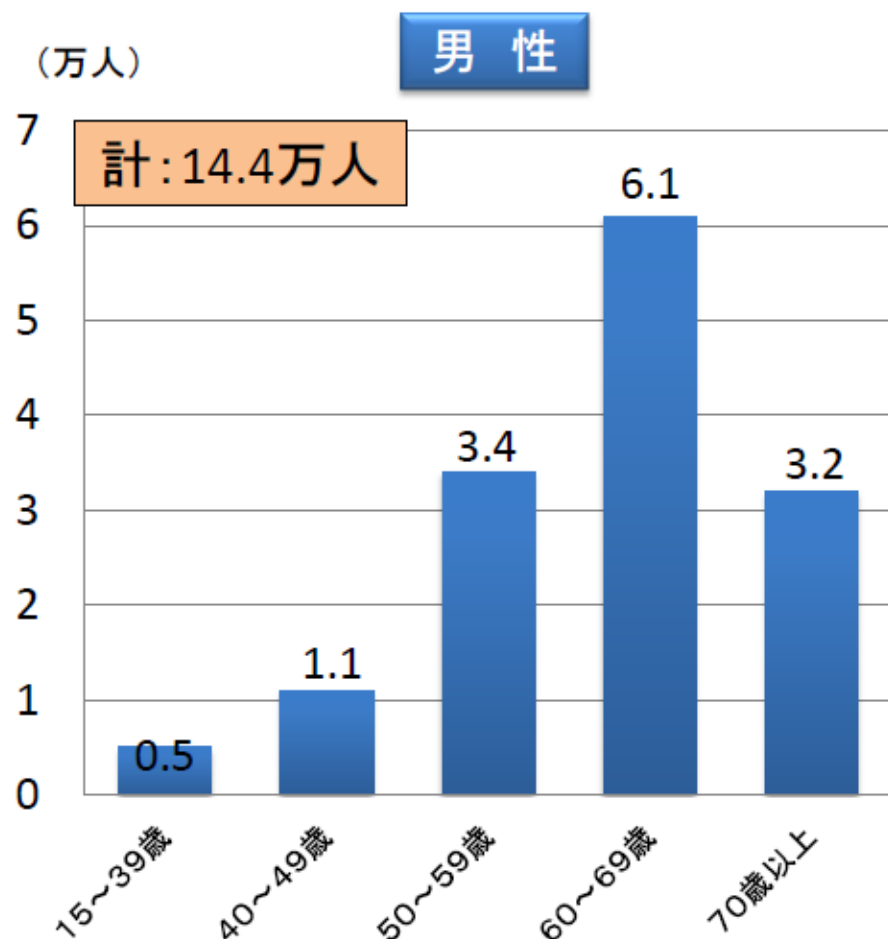
がん医療（放射線療法、化学療法、手術療法）の進歩は目覚ましく、生存率は上昇している。



(出典) 地域がん登録に基づき独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターが集計

# 仕事を持ちながら悪性新生物で通院している者

悪性新生物の治療のため、仕事を持ちながら通院している者は32.5万人いる



※ 仕事をもっているとは、調査月に収入を伴う仕事を少しでもしたことを行い、被雇用者のほか、自営業主、家族従事者等を含む。

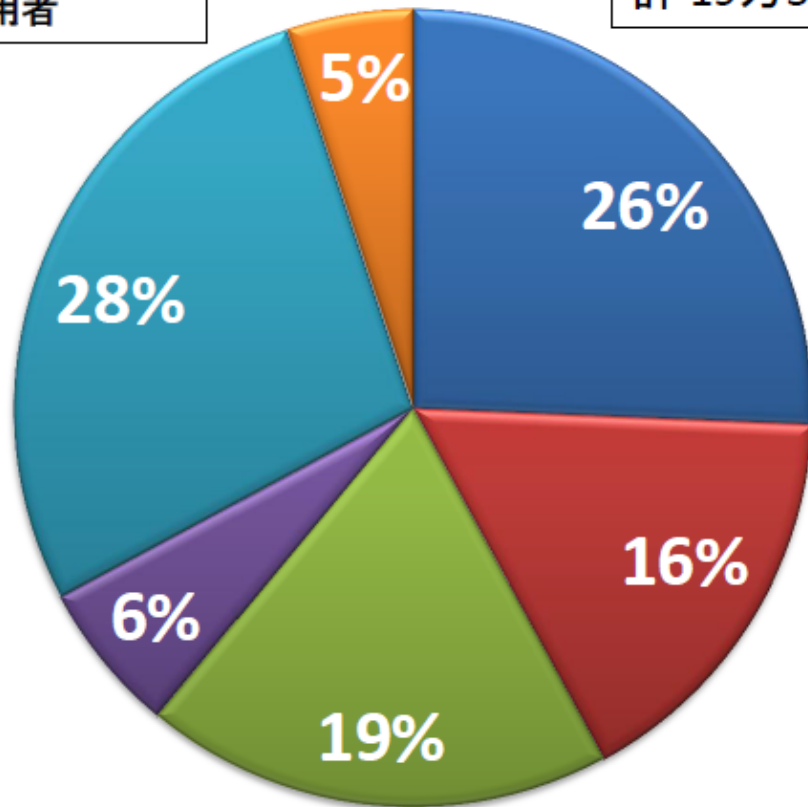
資料: 厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」を基に同省健康局にて特別集計したもの

# がん患者が働く職場の企業規模

がん患者はあらゆる規模の企業で働いている

悪性新生物の治療で通院する  
15歳以上の被雇用者

計 19万5千人



産業医の選任義務なし

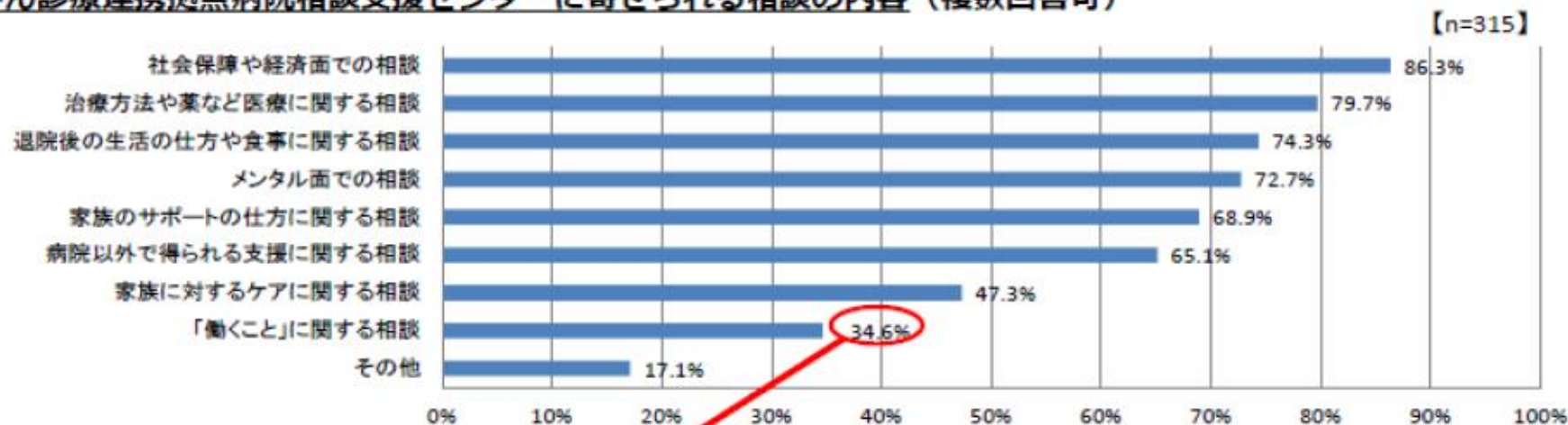
- 1～29人
- 30～99人
- 100～499人
- 500～999人
- 1000人以上・官公庁
- 規模不詳

※ 被雇用者には正規の従業員、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員等を含み、  
自営業主、家族従業者、会社・団体等の役員等は含まない。

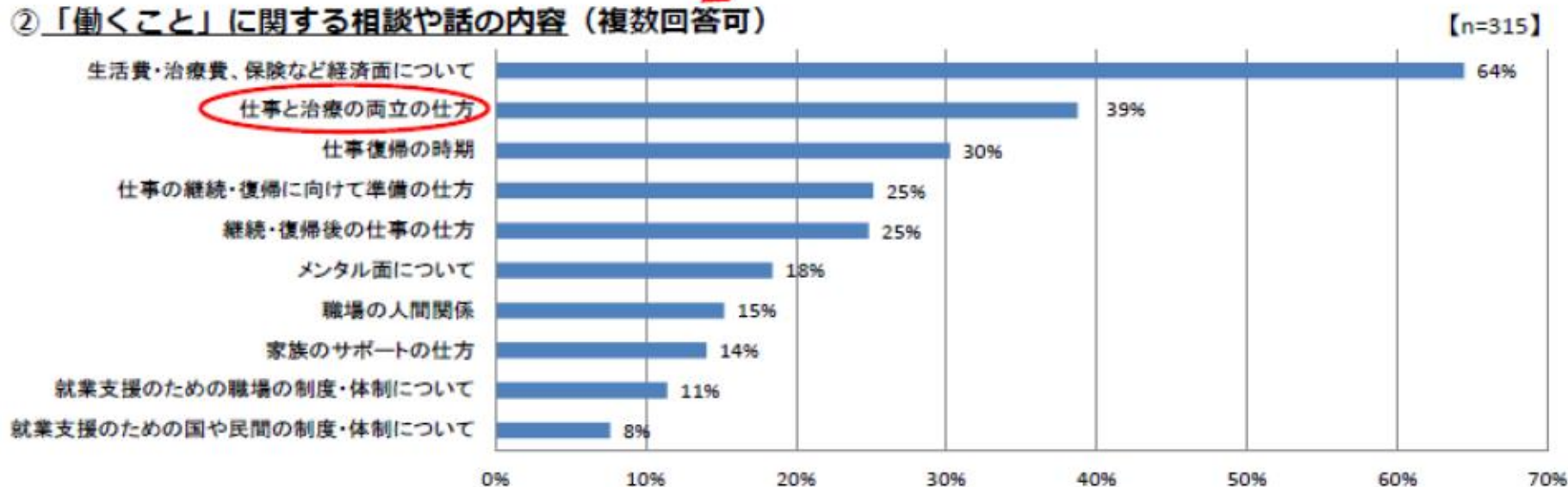
資料:厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」を基に同省健康局にて特別集計したもの

# がん診療連携拠点病院相談支援センターにおける相談の内容

## ①がん診療連携拠点病院相談支援センターに寄せられる相談の内容（複数回答可）



## ②「働くこと」に関する相談や話の内容（複数回答可）



※がん診療連携拠点病院で従事する相談員に315名に経験のある相談内容を調査したもの



# 仕事と治療等の両立についての認識 (世論調査)

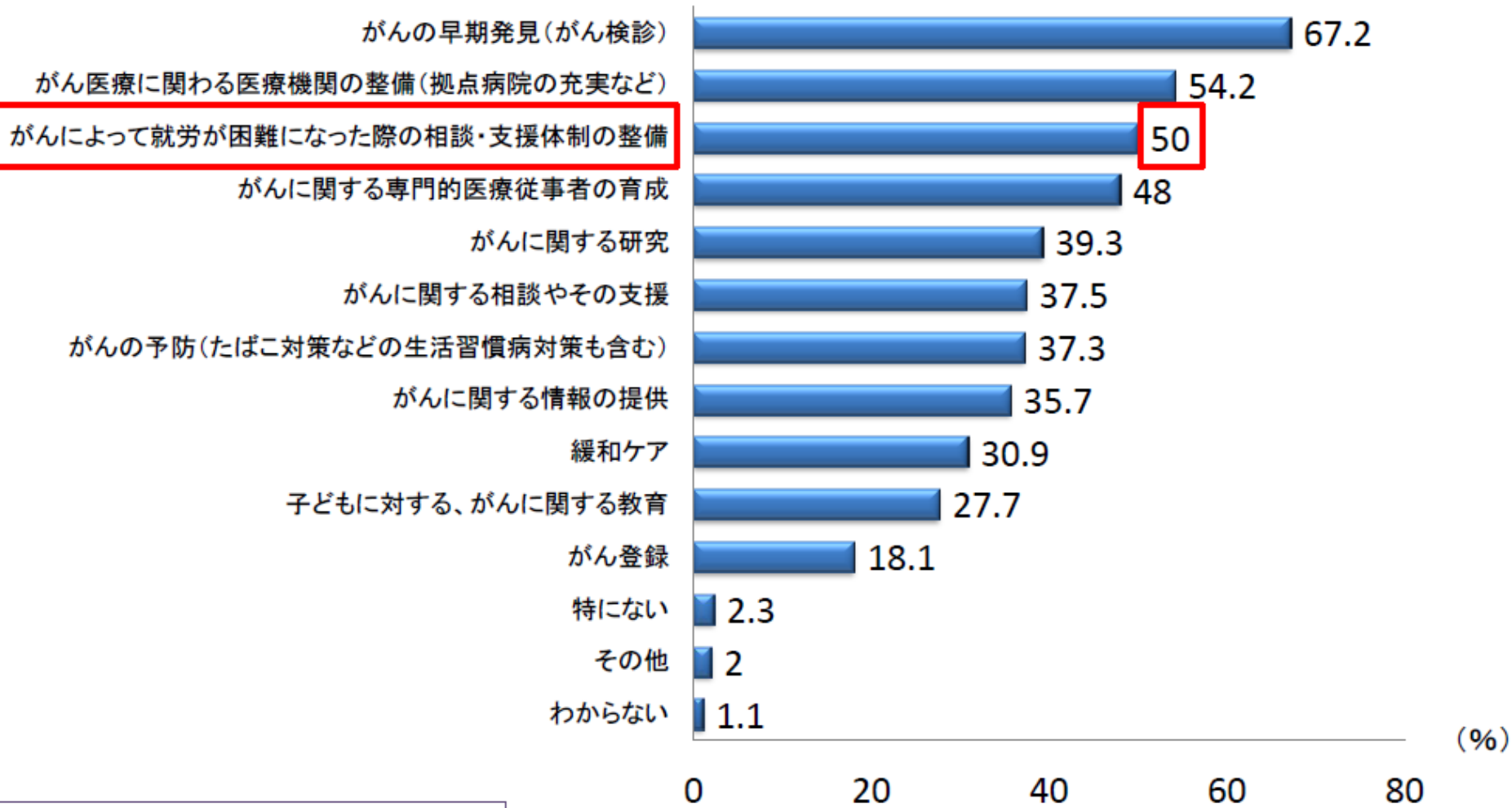
(現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働きつづけられる環境だと思うか質問)



# がん対策に関する政府に対する要望（世論調査）

（がん対策について、政府としてどういったことに力をいれてほしいと思うかと質問）

【複数回答可】  
【n=1883】





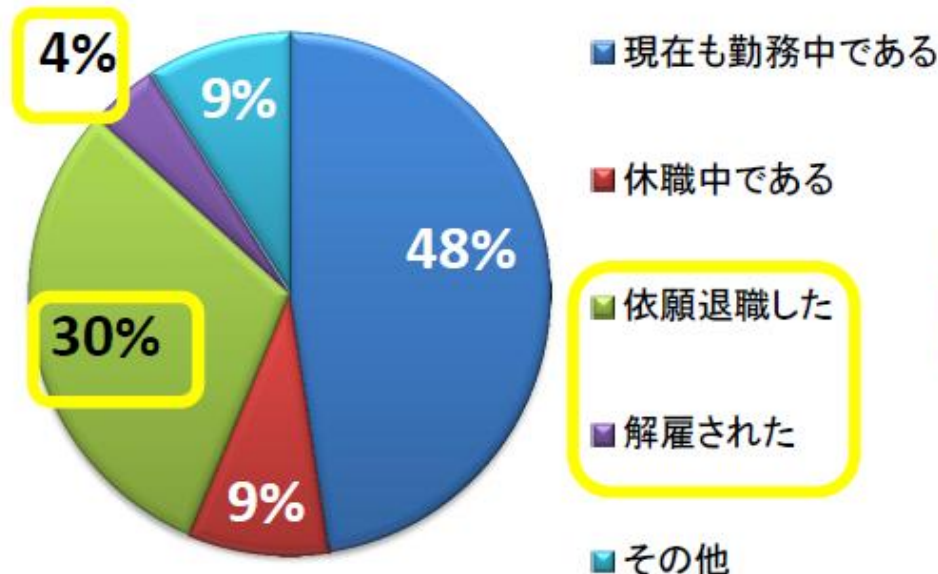
# がん患者・経験者の就労問題

がん患者を対象に調査を行った結果、がんの診断後、

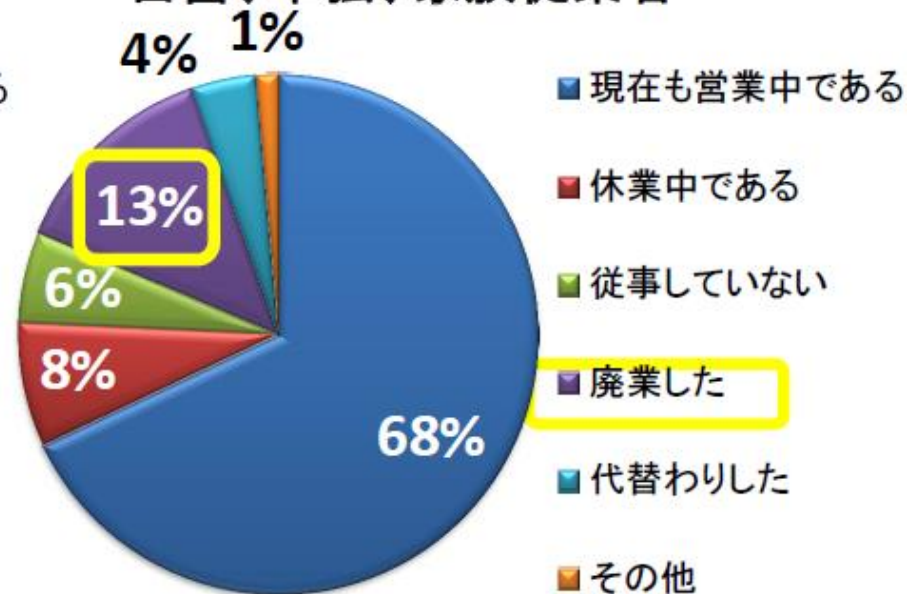
- 勤務者の**34%**が**依願退職、解雇**されている。
- 自営業等の者の**13%**が**廃業**している。

診断時点にお勤めしていた会社や営んでいた事業等について

## お勤めの方

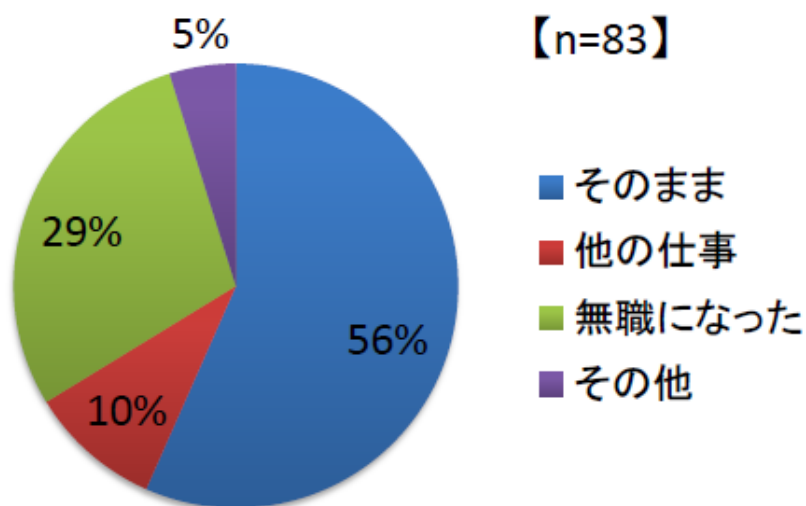


## 自営、単独、家族従業者

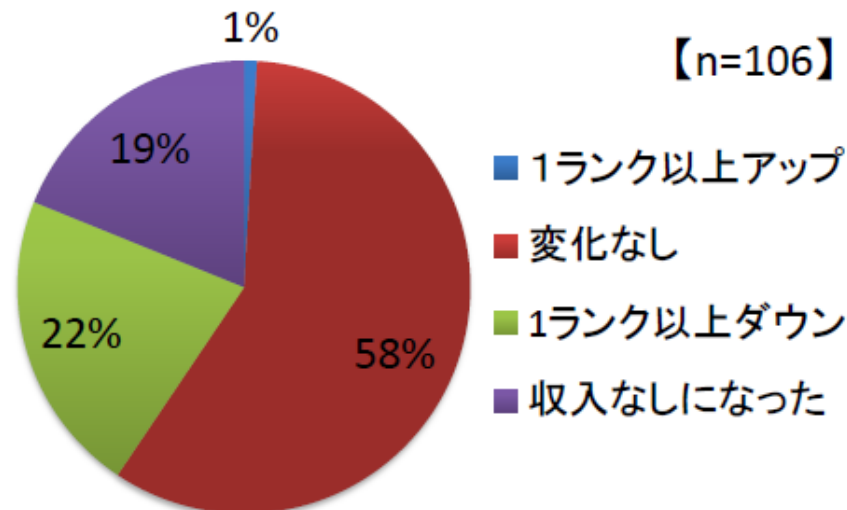


# がんと診断された後の職業と収入の変化

○有職者の診断前後の職業変化



○有収入者診断前後の収入変化



平均年収の変化

診断前 約395万円



診断後 約167万円

# Comment préparer son retour au travail après un cancer

🏠 > ECONOMIE > EMPLOI Par  Edouard de Mareschal | Mis à jour le 04/07/2014 à 15:23 | Publié le 04/07/2014 à 14:19


L'AUTEUR ▾

SUR LE MÊME SUJET ▾

RÉAGIR (11) ▾

PARTAGER 



IMPRIMER 



フランスではがん患者の80%が、治療後復職している。  
がん患者に対する雇用差別は人権問題という認識。

# Curie 研究所の研究から(1)

- がん患者が復職にあたって困難と感じることの第一は罹患前の業務量をこなせないこと(特に肉体労働者)
  - 記憶力の減退や集中力の低下
  - 痛み
  - 動作の制限
- 企業側の配慮不足(稼働能力の過大評価)
  - うつ状態や罪悪感の原因となる

# Curie 研究所の研究から(2)

- がん患者の復職には準備期間が必要
- 復職に向けた計画的リハビリテーションの必要性
  - 明確な目標と方法
  - 目標の相対化
    - 復職することの意義(仲間や家族との関係)→求められているという感覚の確認
  - 産業医との事前の面談
    - 産業医から雇用主への助言と環境調整
  - 段階的な復職
    - 前提としての身体的・精神的状態
    - 必要に応じて種々の公的支援を活用(障害者手当など)

# 精神症状を持つ乳がん患者への 精神医学的サポートの現状

(2010年7月1日～2010年10月31日； 研究班データ)

		うつ	不安症	合計
精神科専門療法	N	73	59	734
	%	9.9%	8.0%	1
抗うつ剤の処方	N	137	32	734
	%	18.7%	4.3%	1
緩和ケア	N	15	5	734
	%	2.0%	0.7%	1
当該症状を持つ患者数		734	738	



# がん患者の就労支援の5つのポイント

1. 患者の仕事に関する情報の収集
2. 患者の持つ多様な悩みに医療職が幅広く対応
3. 患者の希望に応じた受診・治療への配慮
4. 仕事を継続しながら治療ができるよう、治療による仕事への影響の十分な説明
5. スムーズな職場復帰のための環境調整（上司や同僚の理解も含む）



**主治医と産業医の情報共有の重要性**

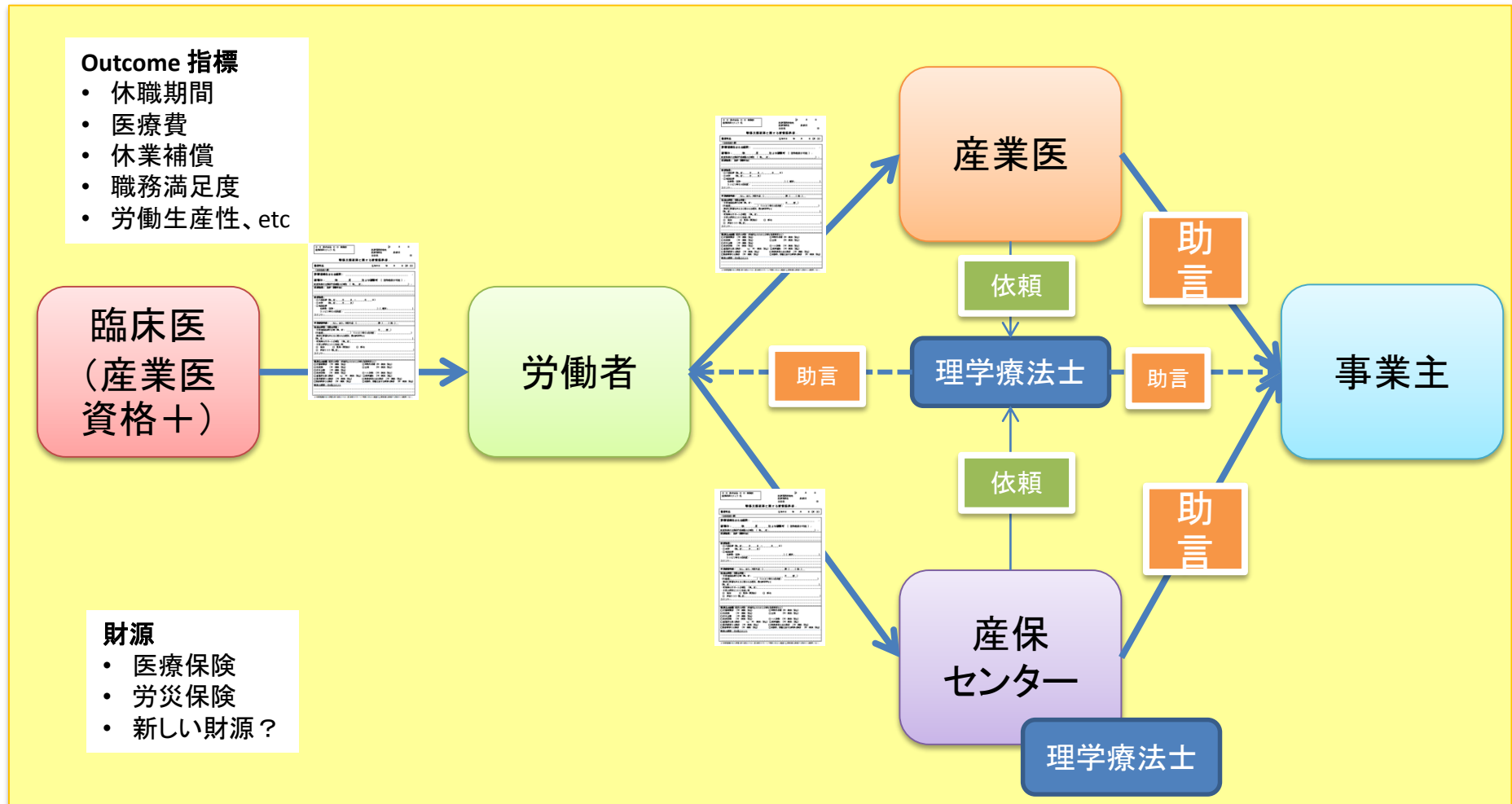
# 医師会員を対象とした研修会

- 平成26年12月13日 東京都医師会研修会
  - 産業医・かかりつけ医連携のための診療情報提供書作成実習
- 平成27年6月3日 東京都葛飾区医師会研修会
  - 産業医・かかりつけ医連携のための就労支援システムについて

# 医師会員を対象とした研修会

- 平成26年12月13日 東京都医師会研修会
  - 産業医・かかりつけ医連携のための診療情報提供書作成実習
- 平成27年6月3日 東京都葛飾区医師会研修会
  - 産業医・かかりつけ医連携のための就労支援システムについて

# 筋骨格系疾患を対象にした 日本版FFWの評価研究



モデル地区の選定(医師会+地域産保+企業)

## 数学理論Rasch modelに 基いて開発された、 WFunの特徴。

「労働障害」という  
唯一つの概念を測定している。

- 複数の概念は解釈を困難にするばかりでなく、調査票の妥当性においても好ましくありません。WFunは「労働障害」のみに的を絞って測定します。

回答は、対象者の「労働障害」の  
程度によってのみ決定されている。

- 7項目の質問に5択で回答する形式をとります。
- 対象者の回答パターンは、対象者の「労働障害」の程度によってのみ規定され、他の要因からの影響を受けません。また「労働障害」以外の要素を測定することはありません。

総得点が全ての情報を有している。

- 回答パターンを分析する必要はなく、総得点が全ての情報を反映しています。
- 回答結果は、合計得点(7~35点)もしくは、換算値(-4~4)で示されます。\*1

得点は客観的である。

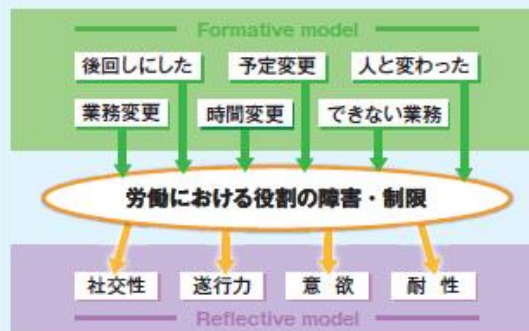
- 総得点から換算される「労働障害」の程度は、集団の属性に関わらず不偏です。この特性があることから、異なる集団間の比較が可能となります。\*2

\*1 換算値：Rasch modelにより推定されるある能力の人が、ある難易度のタスクを実施できる能力を示す「能力値」。

\*2 通常の評価尺度(古典的テスト理論)では集団内の順位を返しており、異なる集団間での比較は厳密な意味では定義できません。

## 調査票開発過程

心理学の測定理論にもとづき、項目を作成し、構成概念の構造的妥当性を統計的に検証後、**数学理論 Rasch model**により7項目に厳選しました。



## 活用方法

### 個人レベル

健康診断では見つからない  
健康上の問題を把握するため。

臨床経過とあわせた、  
疾病経過の指標。

復職後などのモニタリング指標。

予防活動や介入事業の効果指標。

部署や事業所の健康度の  
ベンチマーク指標。

### 組織レベル



■ ■ ■  
集団や個人の特性に依存せず、  
性別、年齢、業種に影響されない  
客観的な労働障害の程度を定量化し、  
個人間、集団間の比較をも可能とする  
測定ツールです。



産業医科大学公衆衛生学教室

# コホート調査

18ヶ月間追跡  
製造業 1296名

## 休業日数に関するコホート

- 異動者・休職はその時点までの休業日数データを使用
- poisson回帰分析休業日数

$$y \sim \text{poisson}(\lambda)$$

$$\lambda = \exp(\alpha + \beta X + \ln(M))$$

Mは観察期間

## 休職・退職に関するコホート

- 定年・転勤は打ち切り



## 休業日数に関するコホート

休業日数	n		IRR	95%CI		p
wfun						
7-14	672	52%	reference			
15-19	272	21%	1.07	1.04	1.10	0.000
20-24	213	16%	1.11	1.08	1.14	0.000
25-35	139	11%	1.20	1.17	1.24	0.000
age			0.99	0.99	0.99	0.000
men			reference			
women			0.97	0.94	1.00	0.082
job_type						
office work			reference			
主に人と接する仕事			0.78	0.76	0.81	0.000
主に作業			0.95	0.92	0.98	0.001

## 休職・退職に関するコホート

	HR	95%CI		p
wfun_c				
7-14	reference			
15-20	2.40	1.06	5.45	0.036
21-35	2.53	1.11	5.77	0.027
age	1.02	0.99	1.05	0.135
women	0.78	0.23	2.57	0.677